

6. 試験項目と内容

(1) 砂の性状調査

本試験に用いる砂について土壌分析、粒度試験を行う。

(2) 移植する植物調査

移植する植物については、船橋三番瀬海浜公園の植物の中から専門家へのヒアリング等を通して選定する。

なお、船橋三番瀬海浜公園の植物の個体数を事前に調査し、植生が変化しない範囲で現地から調達する。

移植時期は春季とし、種まきは基盤の整備後に行う。

(3) 現地作業

緑化試験の現地作業は、参加者と合同で実施するものとし、その役割は以下のとおりとする。

表6-1 現地作業の分類と役割

分類	役割
事業者 (葛南地域整備センター)	○資材手配、作業準備 ○試験枠設置 ○総括作業指示
参加者	○基盤づくりの見学 ○植え込みの見学
アドバイザー (植物作業の専門家)	○基盤づくり、植物の選定の指導 ○種まき、植え込みの指導

(4) 観察

緑化試験を行った試験ヤードの観測を行う。

観測は、参加者と合同で実施することを考えるが、荒天等のイベントが発生した際にはイベント後に実施する。

①観察項目

観察項目は以下を考えるものとし、写真等を交えて記録していく。

○発芽ヤード

- 1) 発芽状況と種類
- 2) 活着状況（生育健全度、成長量の調査を含む）
- 3) 他の植物の侵入状況
- 4) 基盤の保持状況
- 5) 天候（日照、雨量、気温等）

※ 天候について、近隣の測候所等のデータを用いるものとする。

○移植ヤード

- 1) 活着状況（生育健全度、成長量の調査を含む）
- 2) 他の植物の侵入状況
- 3) 基盤の保持状況
- 4) 天候（日照、雨量、気温等）

※ 天候について、近隣の測候所等のデータを用いるものとする。

②観察方法

○観察は専門家および調査員による目視確認、写真撮影、一部計測を行う。

○H18年度完成部（土のう袋を敷き詰めるヤード）では土のう袋にすべてナンバリングを行い、調査項目に関して個別に調査を行う（図6-1）。

○H20年度予定部（間詰めするヤード）では60cmずつの区画に細分してナンバリングを行い、細分した区画単位で調査を行う（図6-2）。

○生育健全度の把握のため、植物の生育状態を、良好・普通・不良・枯れ、の4つのランクを設定し目視により調査する（表6-2）。

※ 生育健全度については、調査結果は相対的評価に用いることとし、調査時における評価は植生及び樹木調査経験者である調査者の主観によるものとする。

○成長量の把握のため、被度、植物の高さを、被度は写真撮影にて、高さは計測にて調査する（表6-2）。

○侵入してくる植物は確認次第、種と時期をリスト化する（表6-2）。

○植生基盤の状態は、破損、砂の減少等について目視により調査する（表6-2）。

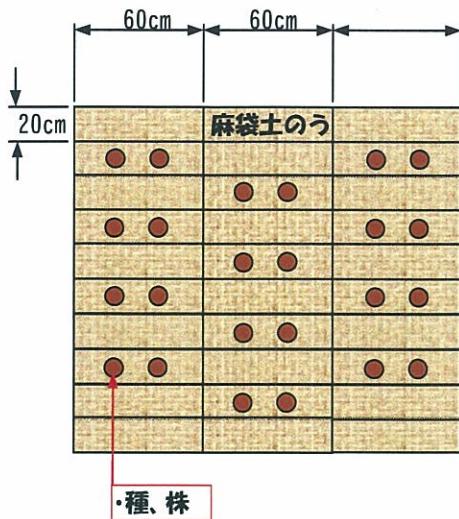


図6-1 H18年度完成断面の試験ヤード

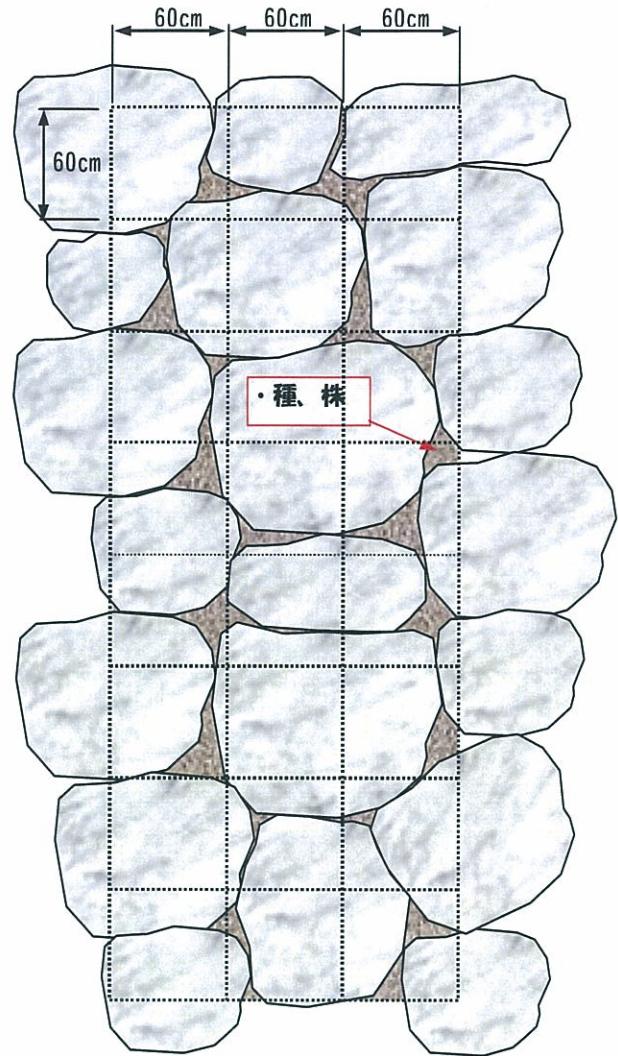


図6-2 H20年度予定部の試験ヤード

表6-2 調査表（案）

大区画No. 被度 % 調査日:

No.	植栽植物名	発芽・ 活着	生育健全度				成長量 高さcm	侵入植物	基盤の破損状況等
			良好	普通	不良	枯れ			

※ 生育健全度については、調査結果は相対的評価に用いることとし、調査時における評価は植生及び樹木調査経験者である調査者の主觀によるものとする。

③観察頻度

観察期間は、試験開始の時期と植物の成長期を考慮して4時期に分けて調査頻度を設定する。

観察の全体期間は平成22年3月までとする。

表6-3 観察頻度

時期	調査頻度	調査内容	Aゾーン		Bゾーン	
			発芽	移植	発芽	移植
夏季8月～9月 (H20年)	1回／月	—	基盤確認	基盤確認	—	—
秋季10月～11月 (H20年)	1回／月	・種まき(Aゾーン) 全項目	○	基盤確認	—	—
冬季12月～3月 (H20～21年)	1回／月 (1月と3月)	全項目	○	基盤確認	基盤確認	基盤確認
春季4月～6月 (H21年)	1回／2週	・移植(A・Bゾーン) ・種まき(Bゾーン) 全項目	○	○	○	○
夏季6月～9月 (H21年)	1回／2週	全項目	○	○	○	○
秋季10月～11月 (H21年)	1回／月	全項目	○	○	○	○
冬季12月～3月 (H21～22年)	1回／月 (1月と3月)	全項目	○	○	○	○

(5) とりまとめ

とりまとめは以下について行うものとする

○観察記録

○試験結果の評価

7. 工程

緑化試験は以下の工程での実施を考えるものとする。

